

	課題分析	授業改善策
国語	真面目に学習に取り組む意欲があり、基礎力は定着している。漢字力、語彙力、表現力、読書量については個人差が大きく、全体の読解力と文章表現力の向上が課題である。	文章の読み取りの着眼点の確認、論理的文章から得た考えと根拠の文章化を習慣付ける。スピーチやビブリオバトル、漢字テストの継続、短歌や俳句づくりなど、計画的に話す書く作業も取り入れ、国語を楽しむ姿勢を養う。eライブラリによる自主学習も定着させる。
社会	与えられた課題にきちんと取り組もうとする生徒が多い。基礎的・基本的な内容の定着に個人差がみられるため、反復学習をすることで学習内容を定着させることが必要であると考えられる。また、図やグラフなどの資料から変化や問題点を読み取り、表現する能力を身に付けることが課題である。	基礎的・基本的な知識の定着を図るために、ワークブック等を活用して振り返り学習を継続的に実施する。また、資料から問題点を読み取り、表現する力を伸ばす。定期考査の出題方法を工夫し、暗記だけの学習にならないようにする。
数学	全学年、計算の反復練習や学び直しにより、基本的な技能を身に付けることができた。習熟度別少人数授業により、授業中の机間指導や生徒一人一人への声かけ、グループワークや学び合い活動を取り入れることができた。 課題としては、主体的に学習に取り組めない生徒への対応や、小学校で身に付けるべき技能を含め、数学的な技能が身に付いていない生徒への対応があげられる。	主体的に学習に取り組めない生徒に対して、授業中に生徒間の対話を増やす発問や展開を取り入れたたり、タブレット PC 等を個々で活用させたりし、生徒が自ら学びに向かえるよう工夫する。 数学的な技能が十分身に付いていない生徒には、学習教室への参加の呼びかけや、基準を満たすまで何度も行う再テスト、eライブラリで個別に課題を課す等の対応を、生徒の様子を見ながら行う。
理科	授業に意欲的に取り組み、特に観察・実験の授業を積極的に行っている。また、基礎的な知識は定着している。課題としては、科学的な考察や、論理的にまとめる力が不足していることが挙げられる。	科学的な考察について、観察や実験結果の考察を自らまとめることや、グループなどで意見交換を行い、他の意見の良いところを取り入れ、発表する授業を行っていく。また、論理的にまとめる力については、タブレットを用いて、自分の考えをまとめ表現させ評価する活動を行う。
音楽	全学年を通じて、実技に対する意欲は十分にある。表現領域において基礎となる読譜力を欠く生徒や、鑑賞領域における批評や感想で、語彙力・表現力が乏しい生徒が多い。	1年：複数の小学校から生徒が集まるため、各自が身に付けた「基礎力の再確認」を行いながら、読譜の基礎である音符・休符などの記号を確認する。 2年：既習曲に触れながら、具体的に発せられた音と楽譜の関係を結びつけられるような指導を行う。 3年：積極的にグループ活動を取り入れ、お互いの感じ取りや思いを共有できる授業を工夫する。 全学年：歌唱・器楽の実技だけでなく、タブレットを使用した創作など、様々な形のアプローチで音楽の楽しさを味わえる教材を開発する。

美術	<p>作品制作に使える時間と作業進度の兼ね合いを考え、見通しをもって取り組む力が足りない生徒が多い。</p> <p>インターネットのイラストなど、既成のものを作品のアイデアに活用する生徒が増えた。</p>	<p>授業で進度の目標を示すこと、作業記録シートで残りの時間を確認することで生徒が意識的に進度の調整を行えるようにする。</p> <p>タブレットを利用した資料活用について具体的に指導し、生徒の創造性が高められるようにする。</p>
保健体育	<p>意欲的に取り組もうとする生徒が多い。しかし、コロナの影響もあってか、新入生を中心に強度の高い運動を継続することができず、体力向上が進んでいない。また男女共習により、運動能力の差も大きくなっている。体力や技能の向上に向けて自身と向き合うことや互いに高め合うことが課題である。</p>	<p>体力向上のために行っているサーキットトレーニングを正しい姿勢で行うよう呼びかけるとともに運動量の確保を心がける。</p> <p>男女共習の授業を行い、性差を理解し互いに協力するとともに、体力や技能を高めるために教え合うことのできる授業を展開する。個人やチームの課題に対して、生徒が自ら課題解決に向けて取り組むことができる授業を展開する。また個の能力に応じて教員から指示や助言、サポートをおこなう。</p>
技術・家庭	<p><技>授業に意欲的に取り組み、知識や技能の習得を積極的に行っている。課題は、知識や技能を主体的に生かして、作品を設計・製作することである。</p> <p><家>与えられた作業に関しては意欲的であるが、それを発展させ、作品等に生かすことが難しい。</p>	<p><技>授業内で設計・シミュレーションをする時間や個々に応じたアドバイスを増やして、生徒が作品に愛着をもち、進んで作業をできるようにする。</p> <p><家>身に付けた知識を作品や実生活で活用するために、具体例の提示や個々に応じたアドバイス等をする。</p>
外国語(英語)	<p>積極的に課題や活動に取り組む一方で、話すことや書くことなど、アウトプットに繋げる文法の知識や語彙の知識が定着していない。</p>	<p>インプット活動を帯活動などに取り入れ、単語テストを定期的に行う。また、デジタル教科書を利用した課題を出す。例えば、生徒自身がデジタル教科書を利用して、音読や単語の発音練習など、音と文字をリンクさせる練習をしたり、フラッシュカードを繰り返し練習したりすることで、単語の定着に繋がったりする。丁寧な段階を踏みながら、アウトプット活動につなげる。</p>